

以下、本文-----

頸動脈エコーにおけるプラーク性状評価の妥当性と限界に関する研究

1. 研究の対象

2010年1月～2025年12月に当院で頸動脈超音波検査を行い、頸動脈内膜剝離術を実施した方。

2. 研究目的・方法

頸動脈プラークとは脂肪や線維、石灰化が血管内に蓄積することを意味しており、なかでも脂肪は脆弱であるために脳梗塞が発生する恐れがあります。

超音波検査は非侵襲的にプラークの評価が可能です。しかし超音波検査における評価は、検査者の主観で行われることも少なくなく、超音波所見と病理所見が必ずしも一致するとは限りません。

本研究では頸動脈超音波検査を行い、頸動脈内膜剝離術を実施した症例を抽出し、超音波検査と病理組織診断でのプラーク性状評価を比較検討し、今後の超音波検査や脳神経疾患領域の場で役立てることを目的とします。

方法として、まず2010年1月～2025年12月に当院で頸動脈超音波検査を行った方で、後日頸動脈内膜剝離術を実施した方を研究対象とします。次に研究対象となる患者が過去に脳梗塞を起こしていたかなどの情報を診療記録から調べ、MRI検査でプラーク成分の評価がされている画像など、診療記録やMRI画像より調べます。そして、頸動脈超音波検査の画像からプラークを目視で評価し、病理組織診断でのプラーク成分を調べます。超音波検査でのプラーク診断は「日本超音波医学会」で提唱される頸動脈プラーク分類に基づいて評価し、超音波所見と病理所見が一致するか評価し、妥当性について統計学手法を用いて検討します。また、術後の経過や合併症の有無を診療記録より調べます。

研究期間：研究機関の長の実施許可日 ～ 2031年1月1日

利用又は提供を開始する予定日：2026年1月1日～

3. 研究に用いる情報の種類

情報：年齢、性別、診断名、既往歴、血液検査結果、頭頸部 MRI、MRA 画像、心電図結果、頸動脈超音波検査結果、病理組織診断結果。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

高知大学医学部附属病院 検査部 宮元祥平

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮（生理検査室 電話番号：088-880-2649）

研究責任者：高知大学医学部附属病院 検査部 藤本新平

-----以上